

千葉県立佐原病院の中庭の思い出

千葉県立佐原病院の中庭は、折々に咲く花を廊下の窓から眺めホッとできる素敵なおとこです。

私が看護局長として佐原病院に勤務していた時の話ですが、看護師の有志の方々から申し出がありました。「私達は佐原病院を愛している。自分たちの退職前に感謝の気持ちを表したく、皆から寄付金を募って中庭の整備をしていきたい。ぜひ自分達に任せて欲しい」と。

一時的な事ではなく継続して中庭を管理できる工夫をすることを条件に、彼女達の行動が始まりました。朝夕の時間のある時、自主的に草花の手入れをし、また水遣りは当番制とし交代で実施。水遣りを継続できるよう噴水状の散水道具を設置してくれました。そして、いつもいろいろな花々の配置を考えて植え、大事に育て、それはそれは見事なものでした。

さらに、地域のボランティアの方々からも、「佐原病院は地域の大切な病院で、病院の環境をもっと良くしたい。専用の場所を責任持って管理したい」との申し出があり、バラやラベンダーなど見事に咲き乱れていた事を思い出します。

私は、そんな気持ちのこもった四季折々の花々をよく写真に取り、佐原病院に入院されていたころから親交が続いていた作家の柳原和子さんにメールで送ったりしたものでした。

(千葉県がんセンター・千葉県地域統括相談支援センター 相談員 大西眞澄)

